

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	令和元年・2年度	事業者名	株式会社 サンエー
補助事業名	侵略的外来水生植物へ浸透移行性除草剤を局所施用する専用器具の開発。及び局所施用による生育抑制効果の確認。		
補助事業結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウを根まで枯殺するための2種類(針注入型と泡塗布型)の専用器具を試作することができた。実地を使用したところ、針注入型は施用痕が見えにくく施用の有無がわかりにくい、茎が細いと貫通して薬液が飛散、屈みながら作業が悪い、といった不具合が確認され不採用とし、泡塗布型は泡が施用株に付着していることから施用の有無がわかりやすく、作業性も良好だったことから泡塗布型を採用し開発を継続することとした。 ・局所施用による植物体への作用性について水槽試験にて確認したところ、オオバナについては泡塗布で枯れることを確認、針注入は茎が中実であることから施用自体が不可能(注入できない)だった。ナガエは茎が中空なので針注入が可能で、泡塗布とともに速やかに枯らすことができた。 ・他草種が混生したオオバナ、ナガエそれぞれの自生地にて泡塗布型局所施用器を用いた野外試験を実施したところ、どちらも施用した箇所の上部は概ね枯らすことができ、近接する他草種にもほぼ影響のないことが確認された。また施用試験区の土壌を採取し、除草剤成分の有無を分析した結果、いずれの検体にも除草剤成分は検出されなかった。ただ地上部は枯れたが、地下部や根まで枯れが到達しているのかについてはやや不確実(枯れていないように見える個体も見受けられた)で、単年の処理だけでは再生の懸念があることがわかった。 		

<p>本年度（令和 4 年度） の状況 ・技術開発等の状況を含む</p>	<p>・オオバナ、ナガエともに昨年と同じ試験区域で継続して野外局所施用試験を行なったが、オオバナについては昨年の 2 か所の試験区域のうち、試験区 A はほぼ水没していたために試験区 B のみで実施することとした。</p> <p>【オオバナミズキンバイ】 試験区は昨年の状態よりもヨシの本数が増えた気がするが、オオバナも依然として生育しており、目視できる株はできるだけ処理し、再生すれば追処理を行なうことにより区内のオオバナを根絶させることを試みた。（除草剤使用料は慣行方法の半分以下と設定） 広範囲に繁茂してしまった群生の一区画に局所施用を行なうことにより、その区画だけ穴があいたように死滅することをイメージしていたが、一時的にはそのようになるもののやがて穴のあいた箇所を補うように区外のオオバナが区内に伸長してくるために、それに紛れてしまい施用株自体の枯死、再生が十分に確認できなかった。本試験地は繁茂しすぎており局所施用技術の適用には向いておらず、試験区を設定する場合、地上や地下も含めて区外からの侵入を防ぐ工夫が必要であることを実感した。</p> <p>【ナガエツルノゲイトウ】 昨年の試験後 1 年経過しても同区画にナガエは依然として発生していたが、昨年の状況と比べると個体数はかなり減少しており、旺盛さも心なしが衰えているように見えて一定の効果が確認できた。個体数は限られているので目視できる株をすべて処理することにより根絶を試みたが、数が少なくなってくると今度は見つけ出すことが困難になってきた。極小の個体が他草種に紛れて存在していると探し出すことが難しく、局所施用により概ね駆除できたとしてもしばらくは再発の有無を監視する必要があると思われた。 本試験地はナガエの発生初期段階だったことから局所施用技術の実証に極めて向いていると思われ、再発の有無について継続して監視を行ないながら同区域の完全駆除をめざす予定である。</p>
<p>備考</p>	